

岡崎の技を紹介！ 体験も可能

『三河・岡崎 城下町わざ工房たくみ庵』



ドラマロケ地となった八丁味噌蔵から持ってきた、本物の味噌桶も展示。

NHK連続テレビ小説「純情きらり」放映にあわせ、石製品や三河仏壇、和ろうそく・太鼓・草木染めなど、岡崎の地場産業・伝統産業を実演・パネル展示を中心に紹介する「たくみ庵」を開設中。期間中は職人が交代で制作の実演などを行い、見学者向けの体験コーナーも。5/17のオープン直後より、連日多くの観光客・市民が詰めかけ“岡崎の匠”を身近に感じています。



身近で感じる匠の技で、実演者との会話も弾みます。(和ろうそく)

【会館時間・期間】～9/30 会期中無休 【展示内容】岡崎石製品、矢、三河玩具火火・和ろうそく他
 毎日午前10時～午後4時 臨時休館の場合あり【体験可能内容】草木染め、石材加工等 有料
 【会場】岡崎公園内花時計横 各種詳細は、<http://www.okazakitakuminokai.jp/takumian/>をご覧ください。
 問合せ先 まちづくり担当 (0564) 53 - 6190

人間環境大学ものづくり研究会

ものろく

vol.4

～伝統的なものづくり再発見～ 榎まるや八丁味噌の石積み職人・鈴木健二さん

大きな桶で3年間、天然熟成される八丁味噌。桶の上には重さ5tを超す、大小様々な石が積まれる。積まれた石は震度4の地震にも耐え、どっしりと味噌を守り育てている。

そんな石積みをして40年手掛けてきた鈴木さん。“男なら手に職付けたいだろ” 18歳で始め、26歳で工場内の石積みが彼一人に任された。現在は、味噌の仕込みから出荷まで現場すべての責任者である。

“石を積むのと乗せるのはちがう。”と、石積みを実演してくれた。まずは一つ石を積む。一つではまだなにか不安定な感じがした。二つ目の石を積む。すると、びっくり！ピタッと、一瞬にして時間が止まった。びくともしない。そんな石が3つ、4つ...、どんどん積まれてゆく。積まれた石たちは、まるで一つの生命体として、新たに積まれてくる石を吸収しているようだ。

“この仕事をしていて、つらい、もうやめたい！と思ったことは？”という質問に対して、

「ないねえ、だって楽しいもん」と即答。「石はみんなちがう顔しとる。同じ石は一つもありやせん。それを積むのが楽しい。」鈴木さんは石が好き、積むのが好き。この時も、近くにある石を撫でている。また積んでいる。私たちだけでなく、辺りの石たちにも語っている。石もなんだか幸せそうだ。

“仕事で輝くのが王道です。人生の王道を歩みなさい。”大好きな先生から頂いた言葉だ。鈴木さんはまさに王道をゆく人だ。この日まで私は、学校や将来に悩み、窮屈になっていた。しかし、鈴木さんに出逢えて、みるみる心が晴れていった。生きることの、なにか手懸りが芽吹いた気がする。本当にありがとうございました！（梅本友美）



石積み中の鈴木さん



桶を背に取材中のメンバー

ものろく

もっと私たちの活動を知りたい方は右記へ... ものけんHP http://www.geocities.jp/monoken_521/